

2026年4月1日 大阪観光大学入学式 挨拶

私は、みなさんが学ぶ大阪観光大学を経営する、学校法人大阪観光大学理事長の山本です。ここには学部1年生253人、2年次編入生16人、3年次編入生40人、合わせて309人が集っています。

ご入学おめでとう。そして沢山ある大学のなかでこの大学を選んでいただきありがとうございます。

いま入学していただいた学生の人数を言いましたが、みなさんがこれまで生活し、育った世界でいえば、(いわゆる「国籍」なのですから、お父さん、もしくはお母さんのご出身で、学生さんは、日本で主な生活、育ちなのかもしれませんね) 14の国と地域からの入学生をお迎えしています。数の多い方から挙げますと、ベトナム、中国、ミャンマー、日本、ネパール、バングラディッシュ、韓国、スリランカ、モンゴル、香港、台湾、ポルトガル、ウズベキスタン、ガボンです。在学生のなかには、インドネシア、タイ、パキスタンの3つの国の学生さんもいますから、大阪観光大学は、17の国・地域の若者が集うコミュニティです。

そして、日本語という共通言語で学び、対話、コミュニケーションをする場ということになります。アジアに位置するこの日本の17の国・地域から構成される多文化のコミュニティのなかで学び、交遊を重ねるということです。

いまヨーロッパで、中東で、中南米で大国の脅迫と侵略とそれへの応酬・応戦、戦禍が続いています。そのなかにあって、改めて「観光は平和へのパスポート

ート」という、約60年前、1967年の国連決議の意味を観光に関係するものとして、心に刻みたいと思います。すでに現在起こっている戦争は、私たちの移動と交流、経済、そして観光を破壊しています。

それだけではありません。戦争は、学びの場もうち砕きます。先日のアメリカの最初のイラン攻撃では、少女たちが学ぶ学校に着弾し、160人以上の少女の命が奪われました。そして最新の情報では、大学への攻撃も行われているということです。核兵器の使用の可能性すら語られ、爆発すれば核兵器以上といわれる原子力発電所をも、武力攻撃の的になっています。ヒロシマ、ナガサキの再来、それ以上の地球そのものの破壊です。

戦争は、学びを中断させてしまいます。子ども、若者の希望がたたれます。

私は、みなさんのような若者の未来を、戦争で奪ってはならないと強く思います。

日本は、1945年以前、いま世界で起こっているように東南アジアの諸国を侵略しました。ここ集うみなさんのお爺さん、おばあさん世代の方々の中には、その被害にあわれた方、記憶に残している方もいると思います。

日本社会は、1945年敗戦のあと、その侵略行為を反省し、日本国憲法前文において「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意」し「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」と宣言しました。また日本国憲法第九条において「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、

国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」とも宣言しています。この理念こそ世界平和を維持し、学び続けることを可能にするものです。

みなさんが学ぶ日本という国は、こうした憲法をもつ社会です。みなさんが安心して学べる環境をつくることを、憲法が保障しています。この保障が壊されることのないように努力することも、この大学を経営するものの責任だと、強く硬く決意します。

大阪観光大学は、この間学生の主体的な学びが、教員の主体的な研究教育が、そして職員が主体的な業務をできる組織となることをめざししてきました。

「主体的」ということは、その活動、仕事、学びを「楽しく」感じる事ができる、それによって「幸せ」になれるということです。大阪観光大学憲章のいう「楽しむ力」という理念が、本学全体のすみずみを貫くようにしていきたいと思います。

経営に責任をもつとは、学生のみなさんの自らを成長させようとする取り組み、それを支える教職員の活動の基盤を整備し、強化することです。これが理事会、そして理事長の職務だと心得ています。これを重ねて表明し、理事長としての挨拶を終えたいと思います。

2026年4月1日

学校法人大阪観光大学理事長

山本 健慈